

# 公益社団法人 函館市医師会が考える

「仮称：医療・介護連携支援センター」  
の構想について(案)

4つの局面において、地域の対応力が不足している部分は何か？

① 日常の療養支援

② 急変時の対応

③ 退院支援

④ 看取り

## 【介護側へのアンケート調査から見た事・・・抜粋】

### ① 日常の療養支援

- ・かかりつけ医や病院との日常における連携の強化。
- ・多職種との連携や研修の機会。

### ② 急変時の対応

- ・急変時における対応のモデルケースの提案と普及。特に夜間や休日。
- ・認知症・精神疾患の方の救急対応。
- ・身寄りのない方が受診した際の同意書等に関するルール作り。

### ③ 退院支援

- ・退院支援・退院調整のモデルケースの提案と普及。
- ・退院カンファレンス等への参加拡充。情報共有・情報提供の仕組み作り。

### ④ 看取り

- ・看取りへの不安に対する看取りへの支援や連携の強化。研修の機会。

4つの局面において、地域の対応力が不足している部分は何か？

① 日常の療養支援

② 急変時の対応

③ 退院支援

④ 看取り

どれも重要であるが、特に②・③の局面における課題の解決が優先されると考える

## 相談支援・窓口の設置について

### 函館市医師会からの提案

函館市医師会病院内の  
「地域医療連携センター・クローバー」  
の体制と機能を参考とし、また、連携を図り  
ながら「相談支援・窓口」としての  
環境整備を進める。

## 函館市医師会病院が現在取り組んでいる事

### ① 日常の療養支援

- ◆ かかりつけ医等からの外来・検査・入院依頼等の応需・・・紹介率90%
- ◆ 地域包括ケア病棟(47床)でのポストアキュートの受入れ
- ◆ 地域の医療従事者・介護スタッフ向けの各種研修会開催  
感染対策、医療安全、最新の医療情報、看護技術の指導・紹介等、年間20回以上開催
- ◆ 訪問診療・・・訪問診療室による在宅医療。(現在・・・定員MAX)
- ◆ 地域医療連携センターでの多職種による様々な相談・支援

## 函館市医師会病院が現在取り組んでいる事

### ② 急変時の対応

- ◆ 二次救急輪番・・・平成27年10月より月3回担当
- ◆ 医師会員(かかりつけ医)からのオンコール＝24時間365日対応
- ◆ 医師会病院が在宅医療を提供している患者・家族・施設からのオンコール＝24時間365日対応
- ◆ 地域包括ケア病棟(47床)でのサブアキュートの受入れ
- ◆ 地域医療連携センターでの多職種による様々な相談・支援

## 函館市医師会病院が現在取り組んでいる事

### ③ 退院(入院)支援

- ◆ 多職種連携による様々な退院(入院)相談や支援
- ◆ // 入院前の聞き取り調査とカンファレンス
- ◆ // 退院前のカンファレンス
- ◆ // 退院前の家屋調査
- ◆ // 退院後のケアやサポート

## 函館市医師会病院が現在取り組んでいる事

### ④ 看 取 り

- ◆ 医師会病院が在宅医療を提供している家族・施設からのオンコール  
=24時間365日対応
- ◆ 多職種による患者・家族・介護スタッフへのケアやサポート

## 函館市医師会病院が現在取り組んでいる事

地域医療連携センター・クローバーが院内・外の様々な局面をコーディネート



医 師

薬 剤 師

看護部(看護師・保健師・介護福祉士)

リハビリ(OT・PT・ST)

管理栄養士

診療放射線技師

臨床検査技師

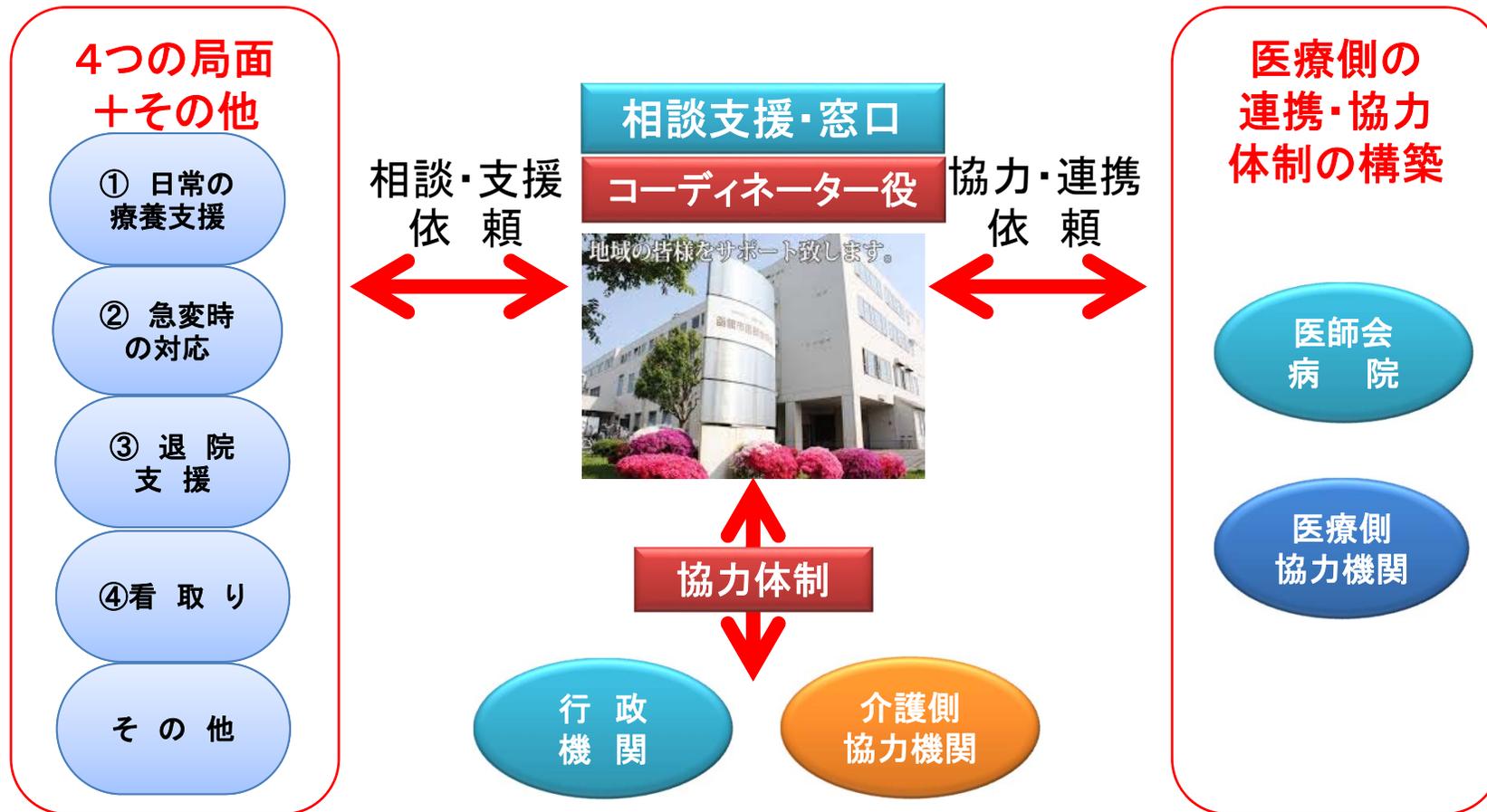
臨床工学技士

社会福祉士(MSW)

事 務 部

# 仮称：医療・介護連携支援センターの構想（案）

## 相談支援・窓口の設置イメージ



## 仮称：医療・介護連携支援センターの構想（案）

### 相談支援・窓口の設置について

以上の通り、函館市医師会病院では「**4つの局面**」全てにおいて、医療と介護を結びつける相談業務や支援を、通常業務の中で既に行っていることから、そのノウハウを生かし、函館市医療・介護連携推進事業としての「相談支援・窓口」を設置する最適の環境であると考えます。

## 仮称：医療・介護連携支援センターの構想（案）

### 相談支援・窓口の設置について

しかし、当然のことながら、医師会病院が単独で行うには限界があります。**様々な局面**を乗り越えるためには、医師会員をはじめ、医療側・介護側の双方から、ご自身が協力できることについて手助けをしていただき、地域住民を**みんなで支える協力体制を構築**することが大切です。

## 仮称：医療・介護連携支援センターの構想（案）

### 相談支援・窓口の設置について

出来ることから少しずつ始め、医療側・介護側を結びつけるコーディネーター、ファシリテーターとしての役割を果たして行くことが我々の責務であると考えます。

目指すは「関係機関」の強力な「**協働体制**」のもと、全国に誇れるモデルケースの構築であります。

# 仮称：医療・介護連携支援センターの構想（案）

## 相談支援・窓口の設置について

最後に・・・

「高齢者が住み慣れた環境で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができる街 **函 館** 」

を、共に協力し合いながらみんなで構築して行きましょう☆

